

B 講演の手引き

ここでは、触媒討論会Bでの講演に際して、各種原稿の作成・提出および講演における注意点などの詳細について説明いたします。講演番号、日時につきましては、触媒学会ホームページ(<http://www.shokubai.org/meeting/>)あるいは「触媒」誌の5号でご確認ください。

1. 予稿原稿の執筆について

予稿は「触媒」誌に掲載されること、触媒討論会Bは討論を主体としていることにご留意の上、原稿の作成をお願いします。また、本会内規により、「触媒」誌に掲載された予稿の著作権は本会に帰属しますので、著作権行使にかかわる諸手続きを本会に委任することをご了承願います。

なお、申込のご講演について討論会委員会で審議した結果、別添の意見(「調査用紙(申込み番号).pdf」)が出されましたので、予稿執筆の際にご留意下さるようお願い申し上げます。

2. 予稿のフォーマット

触媒討論会Bで講演を行う方には、予稿および英文要旨の提出をお願いしております。作成の際には別添の「予稿用テンプレート.doc」および「英文要旨用テンプレート.doc」を必ずお使い下さい*。

*今回よりテンプレートの様式が変更されておりますので、前回の討論会以前のものではなく、必ず添付のテンプレートをお使いいただきますようお願いいたします。

以下には予稿のフォーマットについての詳細説明を記載しております。原稿作成の参考にお使いください。

(順序)

題目、発表者名、所属機関部署名および所在地、要旨、主張したい事項、本文、文献の順とする。

句読点にはコンマ(,)およびピリオド(.)を用いる。

(題名)

18ポイント・MSゴシック体あるいはMSPゴシック体、英数字には、Times New Romanの強調文字(Bold)を用いる。左上部40×20mm(本会記入欄)は空白とし、左寄せにする。行間隔24ポイント。副題は全角ダッシュ記号(—)で囲む。(講演者名、所属、所在地)

9ポイント・MS明朝体あるいはMSP明朝体(英数字はTimes New Roman)、センタリング。行間隔13ポイント。大学の場合には学部名まで、会社の場合は事業所名までを記入する。氏名と所属を対応させるために、右肩に星印(*¹)(*²)を用いる。発表者全員の所属が同じ場合、星印は打たない。(要旨)

9ポイント・MS明朝体あるいはMSP明朝体(英数字はTimes New Roman)、1段組(段幅150mm)、約47字/行、行間隔13ポイント、6行以内。上の講演者名、所属、所在地から一行あける。

(主張したい事項)

要旨と区別するために改行する。見出し[主張したい事項]をつけ、箇条書きにする。項目が複数ある場合には、それぞれの頭に(1)、(2)...(半角)の番号をつける。全体で3行以内にする。特別・依頼講演については[主張したい事項]は不要。

(本文)

9ポイント・MS明朝体あるいはMSP明朝体(英数字はTimes New Roman)で記入する。2段組(段幅84mm、段間隔8mm)、約26字/行、行間隔13ポイント(55行/ページ)。(章のタイトル(大見出し))

1. 緒言

2. 実験

・・・など、9ポイントMSゴシック体あるいはMSPゴシック体でセンタリング、上下1行あける。数字のあとにはピリオドを使用し、文字の間に半角スペースをつける。

(本文中での文献の引用)

本文中に引用する文献は、右肩に通し番号で¹⁾、^{1,2)}、¹⁻³⁾など半角上付きで示す。ピリオドやコンマの前に置く。

(節のタイトル(小見出し))

3.1. xxxのキャラクタリゼーション

・・・など、9ポイントMSゴシック体あるいはMSPゴシック体で、上のみ1行あける。左端から書きはじめ、数字は半角、アンダーラインを引く。

(図表の挿入)

本文との間に一行程度のスペースをあける。図表のタイトルや説明文は英文(Times New Roman)とする。Fig. 1, Table 2のように記載し、Boldにはしない。

なお、B講演予稿は、最大ファイルサイズが5MBとなっていますので、図表解像度などを適宜調整下さい。

(脚注)

脚注を必要とする場合には、上付き(注¹)を用い、そのページの最下部の行に脚注を挿入する。このとき、本文と区別するために、実線で分ける。

(引用文献)

本文末にまとめて、

文献

と見出しを付ける(9ポイントMSゴシック体あるいはMSPゴシック体でセンタリング、上下1行あける。文字の間に半角スペースをつける。)以下の例のように記載する。

1) S. Takenaka, K. Hori, H. Matsune, M. Kishida, *Chem. Lett.*, **34**, 1594 (2005); K. Mori, K. Kagohara, H. Yamashita, *J. Phys. Chem. C*, **112**, 2593 (2008)

2) C. A. Grimes, O. K. Varghese, S. Ranjan, *Light, Water, Hydrogen*, Springer, p.35 (2008)

3) 岸田、竹中、第98回触媒討論会A, 4D08 (2006)

4) 小倉、触媒, **50**, 276 (2008)

5) 山下、田中、三宅、西山、古南、八尋、窪田、玉置、触媒・光触媒の科学入門、講談社 (2006)

3. 英文要旨のフォーマット

英文要旨の記入方法については別添の「英文要旨テンプレート.doc」に記載していますので、そちらをご参照下さい。

4. 原稿の提出方法

触媒誌の電子化に伴い、原稿の提出方法も今回から変更しております。ご協力宜しくお願い致します。

(予稿の提出方法)

別添のテンプレートを使用して作成した予稿(MS ワードファイル(「.doc」ファイル))を、触媒学会ホームページ(<http://www.shokubai.org/meeting/>)から提出して下さい(原稿受付の確認メールが送付されます。)。提出した予稿については、提出後 24 時間以内に PDF へ変換されます。変換作業が終了しましたら、再度メールで通知しますので、もう一度、上記 URL にアクセスして、変換された PDF ファイル原稿に問題がないかを確認し、確認ボタンを押して下さい(PDF 原稿受付の確認メールが送付されます。) *。なお、PDF 変換は手動での作業となっているため、多少お時間がかかります。どうかご了承下さい。

*変換された PDF ファイルについての確認(文字化け、図表の不具合(グラフの軸などが不明瞭、説明文などが隠れている・・・など)、「触媒」誌の体裁に合っているかなど)は各自の責任において行なっていただきます。予稿作成に際しては、記載に誤りがないか十分吟味してください。

(予稿原稿の修正など)

PDF ファイルに問題があった場合には、修正した予稿(MS ワード)を再提出して下さい。MS ワードのファイル提出後は、初回提出時と同じプロセスです。変換された PDF ファイルを確認の上、提出して下さい。

また、原稿提出後に訂正が見つかった場合、受付期間内であればファイルの再提出が可能です。上記 URL にアクセスして、同じ手順で再提出して下さい。

(英文要旨の提出方法)

英文要旨は上記予稿の提出と同じ Web 画面から提出していただきます。テンプレートで作成した MS ワードファイルをそのまま提出して下さい(PDF 変換作業はありません。)。

5. 講演に際してのご注意

(予稿の訂正)

万一、講演予稿に正誤訂正の必要のある場合には、正誤訂正を大きく明瞭に書いた掲示用紙を事前に必ず総合受付に 1 部、会場係に 1 部提出してください。

(予稿集に記載されていない事項について)

発表に際して、予稿集に記載のない事項(例えばホットニュース)について言及することは、討論点と密接に関連があり、討論を意義あるものにするのに必要と座長が判断された場合に限りです。

(発表方法)

本討論会では、液晶プロジェクターでの講演しか受け付けません。以下の点にご留意頂きますようお願い致します。

- ・原則として講演者ご自身でノートパソコンを持ち込んで接続していただきます。
- ・Macintosh をお使いの方はアダプターを必ずお持ちください。
- ・万一のトラブルのために、USB メモリ、CD-R などのメディアに発表用ファイルをコピーしてお持ち下さい。なお、講演中のトラブルには、その理由にかかわらず、予定された講演時間の変更および延長は一切できませんのでご了承下さい。

承ください。

討論会を円滑に進行するためにも、必ずお守り頂きますようお願い致します。

6. 若手優秀講演賞について

触媒学会では 50 周年記念事業の一環として、B 講演発表者のうち、35 才以下の触媒学会会員を対象とした「若手優秀講演賞」を企画致しました。受賞者には、賞状と副賞が授与されます。また、触媒学会ホームページおよび触媒誌上で受賞者を発表させていただきます。

7. その他の注意事項

先に記載しましたように、各種原稿の電子投稿システムを今回から導入させていただいております。投稿に際しましては、いくつかの問題や疑問が発生することが想定されます。以下、そのいくつかについて、対応方法や注意点を記載いたしました。

a) MS Word 2007, MS Word 2008 for Mac をお使いの方
本バージョンから加わった XML ベースの「.docx」ファイルは、ウェブ上では受け付けられませんので、従来のフォーマット「.doc」で保存してください。なお、**テンプレートをお使いになり、「上書き保存」でファイルを作成すれば、「.doc」のフォーマットで保存されますので、そのままアップロード可能です。**

b) 図表に使うフォントについて

日本語：MS 明朝, MSP 明朝, MS ゴシック, MSP ゴシック, 英文：Arial, Helvetica, Symbol, Times New Roman, Wingdings のいずれかを用いてください。これ以外のフォントを用いると、Web 上での PDF 変換時に文字化けする可能性が高くなります。

また、ChemDraw や Deltagraph で作成した図表中の文字やシンボルが文字化けしやすいことが知られています。ChemDraw の場合は MS ワード上で文字を記入することで、Deltagraph の場合はシンボルを DeltaSymbol ではなく Wingdings へと変更することで、解消できます。

c) Mac OS を使用して原稿を提出される方へ

Mac OS を使用して原稿を提出される方は、文字化けや図の挿入に十分に注意が必要です。たとえば、「.pic」形式の図を載せるとエラーが起こりやすいことを確認しております。ほかにも問題が起こることが予想されますので、PDF 原稿提出の際は、十分な確認をお願い致します。

問い合わせ先：

触媒学会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5

化学会館 3 階

電話: 03-3291-8224 FAX: 03-3291-8225

E-mail: catsj@pb3.so-net.ne.jp

B 講演予稿原稿の見本です

左インデント 10.8 字

40mm x 20mm
本会記入欄(空白)

Pd 触媒による H₂ と O₂ からの直接過酸化水素合成
の反応機構

日本語は MS ゴシックか MSP ゴシック 18 ポイント
英数字は Times New Roman 18 ポイント; 太字

題名の
書き方

(1 行空け)

表面太郎*1・固体酸吉*1・活性貴子*2

*1 触媒大学大学院工学研究科 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5

*2 触媒大学触媒化学研究所 〒141-0022 東京都品川区五反田 5-21-13

(1 行空け)

貴金属触媒による H₂ と O₂ からの直接 H₂O₂ 合成に関する触媒反応機構を解明するために、Pd/C 触媒を用い、水中で各種添加物の存在下で H₂O₂ 分解反応および H₂ と O₂ の反応の動力学的検討を行った。その結果に基づき、.....

要旨は 6 行以内にまとめて下さい

MS 明朝か MSP 明朝 / Times New Roman 9 ポイント

主張したい事項は 3 行以内にまとめて下さい(特別講演・依頼講演は不要)。

[主張したい事項] (1) ガスの物質移動速度を考慮した反応速度論の取り扱いの妥当性, (2) 共通中間体として * * * * を含む反応機構, (3) ハロゲン化水素の反応制御の機構

(1 行空け)

1. 緒言

(1 行空け)

クリーンな酸化剤として重要性の増す H₂O₂ の簡素なプロセスを目指して H₂ と O₂ からの直接合成法の開発が数多く試みられてきたが、未だに工業的製法として実現を見ていない¹⁾。触媒としては、.....

全角 / MS ゴシックあるいは
MSP ゴシック 9 ポイント

半角 1 スペース

(1 行空け)

文献番号は上付
ピリオドの内側

2. 実験

(1 行空け)

300ml の 4 つ口フラスコに気泡分散用の邪魔板を取り付け、これに所定量の触媒とイオン交換水を仕込み、内温を 30 に設定した²⁾。特に断りのない限り、.....

日本語は MS 明朝か MSP 明朝 9 ポイント

英数字は Times New Roman 9 ポイント

(1 行空け)

3. 結果と考察

(1 行空け)

3.1. H₂ と O₂ の反応の速度解析

この反応は気相から液相への物質移動を伴うため、動力学的な手法を有効にするためには、この反応系における物質移動の性格を把握しておくことが.....

日本語は MS ゴシックか MSP ゴシック 9 ポイント

英数字は Times New Roman 9 ポイント; 太字

アンダーラインを引く

全角スペース

半角 MS ゴシック

大見出し
の書き方

本文の
書き方

小見出し
の書き方

.....
.....となった。

3.2. 反応モデル

以上のように.....

(1 行空け)

4. 文献

(1 行空け)

1) S. Takenaka, K. Hori, H. Matsune, M. Kishida, *Chem. Lett.*, **34**, 1594 (2005); K. Mori, K. Kagohara, H. Yamashita, *J. Phys. Chem. C*, **112**, 2593 (2008)

2) C. A. Grimes, O. K. Varghese, S. Ranjan, *Light, Water, Hydrogen*, Springer, p.35 (2008)

3) 岸田, 竹中, 第 98 回触媒討論会 A, 4D08 (2006)

4) 小倉, *触媒*, **50**, 276 (2008)

5) 山下, 田中, 三宅, 西山, 古南, 八尋, 窪田, 玉置, *触媒・光触媒の科学入門*, 講談社 (2006)

MS 明朝か MSP 明朝 / Times New Roman 9 ポイント

(スタイルは見本を参考にして下さい。)

その他の書式

用紙: A4 (マージン: 左右 17, 上 24, 下 20 (mm))

句読点: カンマ(,), ピリオド(.)に統一

図表キャプション:

英文, 図表番号は"Fig. 1, Table 2"の
ように表記 (Bold にしない)

行間隔: 題名: 24 pt, その他 13 pt.

文字数: 要旨部分: 約 47 字で 1 段組 (両端揃え)

本文: 約 26 字で 2 段組 (両端揃え)

行数: 約 55 行 / ページ

原稿ページ数

特別講演: 1 枚, 依頼講演: 2 枚, 一般講演: 3 枚

R&D 依頼講演: 2 枚, R&D 一般講演: 1 枚

インデント
3.5
字

インデント
3.5
字